

勿凝学問 213

基礎年金国庫負担と中期プログラムの「なお書き」

2009 年日経の走り出しにちょっと感動しつつ

2009 年 1 月 6 日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

2009 年元旦、日経新聞が「日本の強さ再発見」というコーナーで、「世界では評価高い医療制度」という記事を載せていた。そこに、次のような文章を発見して、新年早々ちょっと驚く。

日本が医療にかけてきた費用は少ない。経済協力開発機構（OECD）が 2008 年にまとめた統計では、国内総生産（GDP）に占める日本の総医療費の比率は 8.2%、米国（15.3%）やフランス（11.1%）に比べ、OECD 加盟国の中でも低い部類。あまり費用をかけずに成果を収めてきたわけだ。

だがこのようなシステムがもう維持できなくなりつつあるのが、現状。医療費抑制がつづき医療現場の人手は足りない。激務となるが、それに見合う報酬が得られるとも限らない。辞めていく医師らが相次ぐ。患者と医師らの間の相互理解も足りず、診療に関して不信や不満が渦巻く。

「高い質」「受信のしやすさ」「費用の安さ」。医療の世界ではこの 3 つを同時に達成することはできないとされている。これからの日本も、医療の質と受信のしやすさを確保するならば、医療に今よりも大きな費用をかけざるを得ない。逆に負担増を拒否するならば、質の低下や気安く医療機関にかかれなくなる事態を我慢するしかない。決断は迫られている。

んっ？ 日経は、新年早々どうしたの？

と思っていたら、今度は、1 月 4 日の日曜版に、「どうなるどうする 09 年家計」というコーナーで、「社会保障、財源確保が課題」との記事。そこには、「制度の中の無駄を省くなどの議論も大切だが、09 年は財源調達への決断が迫られる」……っ！

年末年始で慌ただしく、記事のチェックが甘くなっていたのですかねえ

新年早々、日経新聞にちょっと感動しております……(。＿)ボソ...

それで、こんなに良い記事を立て続けに書かれている日経新聞さんに、ひとつごめんなさいね。ちょっと気になる箇所があったので、ワンポイントコメントを。

1 月 4 日の「社会保障、財源確保が課題」の年金のところ、次の文章がありました。

国庫負担率二分の一実現には年およそ二兆三千億円の財源が必要になる。消費税率にして1%ほど。政府・与党内には「消費税増税で手当とする」との思惑があったが、実現しなかった。結局〇九、一〇年度の二年間は「財政投融资特別会計」という国の特別会計の積立金、いわゆる「埋蔵金」を取り崩して充てる。

自民・公明の与党は〇八年末、早ければ一一年度から消費税を引き上げると合意した。しかし景気回復をその前提としており実現は不透明だ。「埋蔵金」は使ってしまうとなくなり、いつまでも頼れない。財源が決まらないままだと国庫負担率が元に戻ってしまう恐れもある。その場合は今の計画以上に年金保険料を引き上げるか、給付水準を下げるかの対応が必要になる。

最後の、「財源が決まらないままだと国庫負担率が元に戻ってしまう恐れもある」のところですね。昨年のクリスマス・イブ12月24日の閣議決定「[持続可能な社会保障構築とその安定財源確保に向けた「中期プログラム」](#)」の最後の最後の6頁の最後に、「なお、予期せざる経済変動に対応する場合には、それまでの間についても、臨時の財源を手当することにより、基礎年金国庫負担割合を2分の1とする措置を講ずるものとする」という「なお書き」を、誰かが潜り込ませているようなんです—誰か知らないけど、やりますねえ。閣議決定ですから、この「なお書き」の持つ意味は重いですよ。はい、それだけです。

ところで、1月4日の日経新聞には、さらに驚くことが。

なんと、日経新聞史上初めて、そしてきっと最後の僕の写真が、紙面に載っていた!?



社会保障国民会議は25年度の医療・介護費を94兆円と試算した(08年10月)

おいおい、今日の本題は、この写真か?

だって、ゼミの掲示板に次の書き込みがあって、この写真は確かに面白かったのてついついと。。。

4日の日経新聞を拝見いたしました!

後ろ姿の先生もかっこよすぎです♥